



ふれあい

2013年
1月

発行：医療法人社団協友会 八潮中央総合病院

編集：広報委員会 ☎340-0808 埼玉県八潮市緑町1丁目41-3 TEL048-996-1131



年頭対談

やしお歩け歩け協会会長：松田温昭氏

八潮中央総合病院 院長：真田 豪

健康生活を脅かす現状

院長：あけましておめでとうございます。いつもお元気でご活躍なさっているうかがっています。

松田：新たな年を迎えて今月81歳となります。いつも元気でいたいと思っています。病院にはいろいろな患者さんがお見えになるでしょうね。

院長：生活習慣病の患者さんがかなり増えている状況です。また八潮市はメタボリックシンドローム該当者の割合が県内で一番高いというデータがあり、このまま進んでいくと数年後にはかなり深刻な状況となってしまいます。原因は、端的に言うと運動不足や暴飲暴食が挙げられますが、八潮市の特定健診も当院をはじめ市内各医療機関で実施しているので、ぜひ受診していただきたいですね。

松田：私もそう思います。私たち「歩け歩け協会」のメンバーは日頃からいろいろな活動を行っています。私自身も運動や食事に気をつけながら健康な生活を心がけ、ピンピングコロリの人生を送りたいと思っています。また、定期的な健康診断の受診はとても大切ですね。

健康生活のために行っていること

院長：松田さんは具体的にどのようなことを実践されていますか？

松田：毎月定例のウォーキングやラジオ体操会、グラウンドゴルフは週3回仲間たちと一緒に行っています。ウォーキングは季節に合わせた場所を選び、お花や風景など自然や名所などを楽しみながら実施しています。また、個人的には、毎朝のラジオ体操と一日1万歩を目標にしたウォーキングは欠かしていません。また、食事はカロリーをとりすぎないよう適量とし、バランスのよいものを3食きちんとと

「地域から信頼される病院をめざして」



れるよう心がけています。

院長：齢80にしてすばらしい実践だと思います。季節に合わせた毎月のウォーキングは楽しそうですね。また、仲間がいることは活動を楽しく継続していく上で大切なことだと思います。

松田：院長は何か運動をされていますか？

院長：学生時代はラグビーをやっていたのですが、今は残念ながら、仕事に追われてなかなか時間がとれません。病棟の中をいつも歩き回ったりするのでそれなりに運動にはなっていると思いますが…。(笑)

当院の基本方針

松田：検査機器が充実していると伺いましたが…。

院長：総合病院として一通りの機器は設置しています。心臓も撮影できる64列CTやMRIについては、当院を受診された患者さんだけでなく、近隣の開業医の先生から直接依頼を受け、画像と読影結果をお届けしています。当院と開業医とが連携して、地域ぐるみで市民の健康づくりを支援していくことが大切だと思っています。

松田：八潮中央総合病院は開業してどのくらいになりますか？

院長：昭和48年に開設して今年でちょうど40年になります。多くの皆さんにご利用いただけるよう開院以来次のような基本方針を掲げて「地域から信頼される病院」をめざしています。

基本方針

1. 安心・安全な医療の提供
2. 紹介患者・救急患者の積極的な受入れ
3. 総合病院としての機能と充実
4. 教育研修の向上と研鑽
5. 患者さまの人格を尊重した医療



松田：市内に移転するようなお話を聞きましたが…？
院長：はい、現在の病棟が開院以来かなりの年月を経過しているので、数年後には新築移転を計画しています。具体的になりましたら、地域の皆さんにお伝えしていきたいと思います。

ます。また、社会貢献の一環として、一般市民の皆さんを対象として健康講座や糖尿病教室を定期的に開催しており、今後は闘病経験者の講演会やセラピストによる体操会、料理教室なども開催していきたいと思っています。

当院の患者さまの権利

松田：病院の内部のことは一般市民では分からぬことが多いのです。
院長：その通りだと思います。一般的に皆さまからすると敷居が高いところと思われがちですので、われわれのほうからも積極的に地域の皆さんにお伝えしていくよう努めなければならないと思います。
松田：私たちは素人なので、話しやすい医師を期待します。例えば治療法を決める際に、患者が希望する方法をお願いしたい場合もあると思うのですが…。
院長：私たちは、患者さまの権利として次のような権利を尊重しています。

市民病院的な立場で貢献していきたい

松田：「病院は病気になってから行くところ」と思っていたが、病院の持つノウハウは市民の財産でもあるので、今後いろいろな機会を作っていただけるとすれば、われわれも積極的に参加していきたいと思います。

院長：当院は、さまざま機会を通じて地域の皆さまの健康生活を応援していきたいと思っています。

松田：私は若い頃から教育一筋でしたが、教育は、教員と子どもたちや保護者との信頼関係からスタートします。



真田 毅 院長

この信頼関係はすべてのことごとに共通して言えることではないかと思っています。病院では、受付から看護師・医師へと信頼関係があるとスムーズですし、言葉遣いや接し方などにも表れます。これからも地域や患者さんとの信頼関係を大切にして、明るい病院づくりをお進めいただこうと期待しています。

院長：「地域から信頼される病院」は、当院の理念としてすべての職員が念頭において業務を行っています。当院は、八潮市の市民病院的立場を担いながら、市民の皆さんの健康づくりに貢献していきたいと思っています。これからも、急性期・慢性期・健診の全てのレベルで信頼関係を大切にして、地域から信頼される病院をめざしてまいります。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。本日はありがとうございました。

患者さまの権利

1. 適切な医療を受ける権利
2. 人権とプライバシーが保護される権利
3. 医療情報の説明を受ける権利
4. 医療行為を選択する権利
5. 診療録の開示を求める権利
6. 他の医師に意見を求める権利
(セカンドオピニオン)

治療法を選ぶのは、あくまで患者さまの権利です。インフォームドコンセントといって、適切な情報を提供させていただいた上で、患者さんの希望を尊重しながら、希望に合わせて治療していきます。

松田：それを聞いて安心しました。私も中央病院で定期的に診ていただいている先生がいるのですが、言葉だけでなくイラストなどを図示して説明してくださるので、とても分かりやすいですね。病院としての方針が行き届いているのだと思います。



松田温昭 氏

院長：これらの「基本方針」と「患者さまの権利」は、職員全員がいつも忘れないよう、毎週の朝礼で必ず唱和してい

profile

松田温昭(まつだ・よしあき)やしお歩け歩け協会・会長、81歳
八潮市に生まれ育ち、市内の小中学校で長く教鞭をとった後、教育行政の責任者である教育長を4期つとめた。現在、やしお歩け歩け協会会長のほか、やしお健康ラジオ体操連盟顧問、宮田グラウンドゴルフ会会長などをつとめる。

真田 毅(さなだ・たけし)八潮中央総合病院・院長、57歳
神戸市出身、秋田大学医学部を卒業し、平成8年に外科医として当院に入職。副院長を経て平成13年7月から院長をつとめる。専門は一般外科・胸部外科。

眼科診療をさらに充実

白内障手術始まる！



新任医師
津田 泰弘(つだ・やすひろ)

専門分野 眼科一般
所属学会 日本眼科学会
専門資格 日本眼科学会専門医

このほど眼科医師として津田泰弘医師が着任し、眼科がさらに充実した診療内容となりました。

新しい機器も導入し、平成25年1月より「白内障手術」を始めます。

安全でしかも短時間(日帰り・一泊入院)でできるようになりました。

眼科外来表

	月	火	水	木	金	土
午 前		●	●	●	●	●
午 後		○	●	●	●	

○ 火曜日午後は予約の検査のみ行います。

小作田町会で「健康教室」開催

11月17日（土）午後、小作田公民館において、当院の糖尿病診療チームが講師となって小作田町会主催の健康教室が開催されました。この事業は移動公民館事業の一環として開催されたもので、町会の要請に基づいて当院の荒川将之医師（日本糖尿病学会専門医）をはじめ、看護師、管理栄養士等が現地に赴き、糖尿病の基礎知識、食事療法、運動療法、治療薬、フットケア等について具体的な解説を行いました。当日はあいにくの雨模様でしたが、地元町会から56名の参加があり、最後まで熱心に受講していました。



糖尿病教室のお知らせ

糖尿病教室とは、糖尿病をよく知り、正しい食事や運動を身につけるための当院主催の講習会です。

- 対象 ご希望の方はどなたでも受講できます。
(当院受診の有無は問いません。)
- 会場 2C病棟デイルーム（当院2階）
- 予約 2日前までに内科外来で予約してください。
(予約なしでも受講できます。)
- 時間 毎回 午後2時30分から（約1時間）



八潮中央総合病院 糖尿病診療チーム

内 容	日 程	担 当
1. 糖尿病とは？ 合併症・糖尿病の基本を知りましょう	1月11日(金)	医 師
2. 食事療法 むずかしくない糖尿病の食事療法 正しい食事って何？	1月25日(金)	管理栄養士
3. 運動療法 活動的な生活で血糖値を下げましょう	2月 8日(金)	理学療法士
4. ① 低血糖とシックデイ 日常生活の注意 ② 糖尿病に関する検査 検査内容について説明します	2月22日(金)	① 看 護 師 ② 臨床検査技師
5. 糖尿病の治療薬 よくわかるクスリの話	3月 8日(金)	薬 劑 師
6. フットケア 足のお手入れ	3月22日(金)	看 護 師

※都合により変更となることがあります。

「笑顔の助け合いに感動しました」

八幡中学校 1学年

八潮市内の中学校では、「社会体験チャレンジ事業」を実施しています。この事業のねらいは、地域の中でさまざまな社会体験活動や多くの人々とのふれあいを通じて、みずみずしい感性や社会性、自立心を養い、たくましく豊かに生きる力を育むために実施しているものです。当院ではこの事業の趣旨に賛同し、毎年各校からのご依頼により中学生の皆さんを受け入れています。

そこで今回、11月6日から9日までの4日間、当院の回復期リハビリテーション病棟等体験していただいた八幡中学校1学年の4人の生徒さんによる職場体験の感想をご紹介します。

■ 一日の動き（11月9日の場合）

9：00	一日の説明
9：10	リハビリテーション見学
10：15	レクリエーション「風船バレー」
10：30	病棟内見学
14：00	心肺蘇生法実習
16：00	振り返り、質疑応答

■ 感想

大川くん：病院と聞くと堅苦しいイメージがありました。中に入ると多くの方が笑顔で話し合ったり、助け合ったりしているのがわかり、イメージが変わりました。患者さんとのコミュニケーションは大変だと思いました。でもやりがいのある仕事だと思いました。今回福祉分野のお仕事の体験を希望しました。病院の体験を通じてどんな場合でも「笑顔」でいることの大切さがわかりました。担当の方が優しく丁寧に説明してくれてわかりやすかったです。

近藤くん：私自身の足のケガで前半の2日間しか参加できませんでしたが、とても勉強になりました。シーツ交換などは大変だと思いましたが、シーツのたたみ方は勉強になり常に整理整頓する必要を感じました。そしていろいろな動きはそれぞれポイントがあることがわかりました。印象に残ったのは、飲み込む力が弱い患者さんに流動食をあげたことです。今までにない体験で、困っている患者さんに一生懸命対応しているスタッフの皆さんに感動しました。職員の人がやさしい方でした。



▲レクリエーション「風船バレー」



大川拓海くん 近藤拓未くん 鈴木博貴くん 七海航斗くん

鈴木くん：病院の中では、杖を使用する方や車椅子の方などふだんの生活ではあまり会うことのない方々とお会いし、お話しすることができて、とても勉強になりました。手足が不自由な方の食事のお世話をやりたかったので、体験できてよかったです。社会にはさまざまな方がいますので、普通に動ける私たちは、身体の不自由な方を皆で支えていくことが必要だと感じました。病院の方がどんなことでも丁寧に説明してくれました。

七海くん：病院の中では、患者さんのために朝から夜まで一日中仕事をしている人がいて、大変だと思いました。やりがいのある仕事だと思いました。心肺蘇生は初めての体験で難しかったのですが、命を救うために大切なことだと思いました。病院にはいろいろな専門職の方がいて、それぞれの役割をきちんとつとめながら、いろいろな状況の中でそれぞれの人が助け合いながら、いきいきと活躍しているのがわかりました。職員さんが優しく丁寧でした。



▲心肺蘇生法実習

■ 担当職員より

介護福祉士 菅野 慎一郎 (28)

体験前の生徒さんは、病院のイメージとして固くて重苦しいイメージがあると言っていましたが、今回の体験を通じて、病院内のスタッフは明るく笑顔で、そして皆で助け合っていることを知ってもらい、イメージを新たにしてもらってよかったです。

専門用語が多い職場なのですが、中学生に説明するため、なるべくわかりやすい言葉遣いに心がけました。体験事業の担当として、病院にはいろいろな仕事があることや医療の仕事の持つ意味などを説明し体験していただきましたが、生徒さんたちには広い意味で感じ取ってもらえたと思います。

みなさん真面目に一生懸命体験していただきました。この経験を今後の進路等に生かしていただければ幸いで